病児保育室 あんず通信 Vol.100　2024年３月号

～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～インフルエンザについて～

昨年夏から続いていたインフルエンザは、１月後半からＢ型が流行り出してから３月に入って減少傾向となっています。今回のインフルエンザは、大きなピークが無かった分、ダラダラと長期間の流行となりました。とはいえ、型は AH1pdm09、AH3、Ｂ型など次々に入れ替わりました。ひょっとすると、このシーズンに３回インフルエンザに罹った人もいたのではないでしょうか？インフルエンザワクチンは感染予防効果はあまり高くなく、重症化予防と言われています。ですので、自己の免疫力を高めることで感染予防することが大切です。睡眠をしっかりとり、適度に日光を浴び、規則的な生活やバランスの取れた食事を習慣にしましょう。

～溶連菌感染症について～

昨年後半から溶連菌感染症は、高い流行レベルを維持しておりなかなか終息しません。溶連菌感染症は、一度かかっても何度でも罹患する特徴があります。通常、抗生物質を７～１０日間内服して除菌治療を行いますが、それでも繰り返し罹ってしまう場合があります。あまり何度も罹ってしまう場合には、ご家族内で「無症状保菌者」がいないかどうか確認することもあります。せっかく治療しても、ご家族内のピンポン感染が疑われる場合は、無症状のご家族の検査を行い、陽性者がみつかったら一斉に除菌を行います。

～新型コロナウイルスについて～

３月上旬の全国の感染状況によると、３週間連続で減少となっています。今回の１０波はピークもそれほど高くなく終息してきました。丸四年続いた新型コロナもそろそろ終息してくれることを願うばかりです。

～新型コロナワクチン・副反応について～

令和６年度春以降は、ワクチンの定期接種対象者は 65 歳以上の高齢者及び、60－64 歳ではインフルエンザワクチン等における接種対象者のみが対象となります。

京都大学名誉教授の福島雅典先生は、一般社団法人ワクチン問題研究会や医学雑誌で厚労省のデータや世界中の論文をもとに副反応について驚愕の調査結果を発表しています。2021 年 12 月から 2023 年 11 月までに発表された論文は、国内だけでも 447 演題です。世界の論文と比較しても、国内国外ともにあらゆる臓器に渡る副作用が報告されています。副反応の上位 10 疾患は、血小板減少、頭痛、心筋炎、血小板減少を伴う血栓症、深部静脈血栓症、ギランバレー症候群、静脈同血栓症、アナフィラキシー、リンパ節腫大、血管炎です。特に目立つのが血栓症とつく血管系障害です。厚労省のデータでも死因上位は血管系障害、心臓障害で半数近くを占めています。血管以外では、リウマチや皮膚筋炎などの自己免疫疾患が多発していると解説されています。

～最後に～

おかげさまで、あんず通信を 100 号まで続けることが出来ました。これからも皆さんの参考になる情報を発信できるよう頑張って参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

表：２月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	インフルエンザＢ型	220
2	溶連菌	186
3	胃腸炎(ﾉﾛ３ｱﾃﾞﾉ１含む)	128
4	咽頭アデノウイルス	28
5	新型コロナウイルス	19
6	インフルエンザＡ	16
7	突発性発疹	6
8	とびひ(伝染性膿痂疹)	4
9	りんご病	2
10	水ぼうそう	1

あんず通信ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰはｸﾘﾆｯｸﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞからご覧になれます。https://www.ssn-clinic.net/index.html

～あんずからのお知らせ～

★空き状況は Web で

しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★キャンセルをされる場合

留守番電話で構いませんので当日８：３０までに必ずご連絡をお願い致します。利用ご希望の方が１人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★ご予約の際の注意事項

診察を受けた病名によって、なるべく同じ病気のお子様が同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

予防接種ニュース

令和６年４月より五種混合ワクチンの定期接種が始まります。同時に、これまで 13 価だった小児肺炎球菌ワクチンが新たに 15 価のものが定期接種となります。